

■ 調査の目的 ■

この調査の目的は、学会員の皆様が、どのような研究活動を行っているか、また、心理学あるいは日本心理学会の活動に対してどのような考え方をお持ちであるのかをおたずねして、今後の本学会のあり方や日本における心理学の発展を考える上での資料にすることにありました。JPA マイページで回答をお願いする形で、トライアルとして実施しました。

ご回答にご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。

ここでは、会員の皆様にフィードバックするために、単純集計表の形で公開します。また、いただいた回答および自由記述で寄せられたご意見は、今後の学会の運営に活かします。

今後も、JPA マイページにおいて、調査を実施しますので、ご協力をよろしくお願ひします。

日本心理学会

実施期間 2015. 3. 16-7. 14

ご協力いただいた方々

合計 434 名 (全会員 8,127 名の 5.3%)

性別 男性 269 名, 女性 165 名

年齢 平均 41.7 歳 (SD 12.3 歳) (22~85 歳)

勤務形態

常勤 293 名, 学生・院生 84 名, 非常勤 26 名, 不明・登録なし 36 名

専門区分 1

第 I 部門 (知覚, 生理, 思考, 学習)	125 名
第 II 部門 (発達, 教育)	101 名
第 III 部門 (臨床, 人格, 犯罪, 矯正)	114 名
第 IV 部門 (社会, 産業, 文化)	90 名
第 V 部門 (方法, 原理, 歴史, 一般)	4 名

Q1

(1) 日本心理学会が、市民のためにおこなうつぎの活動について、これらの活動が社会にとって重要かについて、あなたのご意見をお伺いします。それぞれについて、各活動をよく読んで、「重要でない」から「重要である」までのどれか1つでお答えください。

	重要でない	あまり重要でない	どちらともいえない	どちらかという重要である	重要である
日本心理学会がおこなっている活動について					
1. 学会が市民向けの心理学のホームページを作る	1	6	14	35	44
2. 学会が、高校生向けの心理学の公開講座をおこなう	1	3	9	37	50
3. 学会が、市民向けの心理学の公開講座をおこなう	1	3	9	41	46
4. 学会が、災害が起きたときに、被災者や行政に対して支援を行う	2	2	11	31	54
日本心理学会がおこなっていない活動について					
5. 学会が、博物館・科学館で心理学の展示をする	3	10	17	40	31
6. 学会が、心理学に関わることがらについて、市民が気軽にアドバイスを受けられる相談会や窓口を設ける	6	14	28	30	23
7. 学会が、社会に流れる不正確な心理学的な情報について、積極的に誤りを指摘したり、注意喚起を行う	1	3	9	34	53

数値は434名中の回答比率

(2) 市民のために日本心理学会が行うべき重要な活動として、ご提案があればお書き下さい

<<自由記述は省略>>

Q2

つぎは、あなたが受けた大学教育全般についてご意見をお伺いします。
つぎの教育について、「役に立っていない」から「役に立っている」までの5段階から1つ選んで下さい。

	役に立っていない	あまり役に立っていない	どちらともいえない	どちらかというと役に立っている	役に立っている
1. 講義形式の授業で学んだ知識(心理学以外も含める)は、 <u>物事を考える上で</u> どの程度役に立っていますか。	0	5	12	46	37
2. 講義形式の授業で学んだ知識(心理学以外も含める)は、 <u>今の仕事に</u> どの程度役に立っていますか。	1	4	10	36	49
3. 演習や実習形式の授業で学んだ知識(心理学以外も含める)は、 <u>物事を考える上で</u> どの程度役に立っていますか。	0	2	6	37	55
4. 演習や実習形式の授業で学んだ知識(心理学以外も含める)は、 <u>今の仕事に</u> どの程度役に立っていますか。	1	2	8	31	59
5. 論文を執筆した経験は、 <u>物事を考える上で</u> どの程度役に立っていますか。	0	2	6	24	69
6. 論文を執筆した経験は、 <u>今の仕事に</u> どの程度役に立っていますか。	0	2	8	20	70

数値は 434 名中の回答比率

Q3 つぎは、あなたの心理学に対する考え方をおうかがいします。
 以下のことがらはあなたの考えにどのくらいあてはまりますか。「あてはまらない」から「あてはまる」までの5段階から1つ選んでください。

	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1. 心理学という学問は科学であると思う	0	1	8	36	54
2. 心理学においては、再現性には必ずしもこだわらなくてもよい	35	34	16	14	2
3. 自分の心理学の研究や取り組みは、科学的方法論にのっとったものである	1	2	13	44	40
4. 心理学の進歩は、人々の生活を向上させる	2	2	19	41	36

数値は434名中の回答比率

Q4

(1) つぎは、「疑似科学的心理学」についておたずねします。

「疑似科学的心理学」とは、科学的な心理学の知見や理論のように装って、現在の一般社会に受け入れられたり実践されているにもかかわらず、心理学の専門的な眼から見ると科学的・実証的根拠がほとんどない人のかかわる主張のことです（心理学における科学とは異なる文脈でのアプローチは含みません）。こうした疑似科学的心理学についてどのくらいご存じですか。

選択肢 1～4 から一つお選び下さい。

- 1 そうしたものは知らない 18
- 2 多少はそうしたものを知っている 49
- 3 いくつもそうした例を知っている 19
- 4 （他の学問領域に比べても）著しく多くの例があると思う 14

数値は 434 名中の回答比率

(2) 上記質問で 2～4 を選んだ方にお尋ねします。こうした心理学における疑似科学的な主張の例として、どのようなものがあると考えておられますか。いくつでも自由にお書き下さい。

<<自由記述は省略>>

(3) あなたの疑似科学的心理学に対する考え方をおうかがいします。

以下のことがらはあなたの考えにどのくらいあてはまりますか。「あてはまらない」から「あてはまる」までの 5 段階から 1 つ選んでください

	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1. 疑似科学的心理学は問題視するほどのものはない	34	36	20	9	1
2. 疑似科学的心理学によって、心理学という学問に対する一般市民からの信頼性が損なわれている	4	9	21	40	27
3. 疑似科学的心理学によって、誤った心理学実践（教育、テスト、療法など）が実施されることを危惧している	3	4	9	43	42

数値は 434 名中の回答比率

Q5 最後に、現在進めている共同研究についてお伺いします。

あなたは、現在、他の研究者と共同研究をしていますか

(ただし学生・院生の研究指導は除きます)

数値は 434 名中の回答比率

共同研究をしている (38)

共同研究をしていない (62) =>回答終了

(5-1) 共同研究を進めている方にお伺いします。共同研究が複数件数ある場合は以下の問いはすべてをあわせて回答してください

共同研究者の専門分野を、下記の分野から、あてはまるものをすべてチェックしてください

164 名中の回答比率

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1. 自分と同じ領域の心理学分野 | 47 |
| 2. 自分と異なる領域の心理学分野 | 29 |
| 3. 教育学分野 (教育工学, 科学教育などを含む) | 12 |
| 4. 人文学分野 (哲学, 歴史, 文学, 言語など) | 5 |
| 5. 社会学・政治学分野 | 4 |
| 6. 司法・犯罪分野 | 3 |
| 7. 経済, 経営, ビジネス分野 | 3 |
| 8. 理学分野 (生物学, 統計学を含む) | 4 |
| 9. 建築分野 (建築, 土木, 都市計画など) | 1 |
| 10. 情報・電気・機械などの 8 以外の工学分野 | 9 |
| 11. 農学分野 | 2 |
| 12. 医学・歯学・薬学分野 (脳神経科学を含む) | 19 |
| 13. 保健・福祉分野 | 12 |
| 14. 環境学分野 | 2 |
| 15. 家政分野 | 1 |
| 16. 芸術分野 | 2 |
| 17. その他 | 2 |

(回答: 体育学, スポーツ科学, 政策・国際協力, 保育, 実務家, 宇宙科学, など)

(5-2) 共同研究者の所属についてあてはまるものをすべてチェックしてください

164 名中の回答比率

- | | |
|-------------------|----|
| 1. 同じ大学 | 33 |
| 2. 日本国内の他の大学・研究機関 | 49 |
| 3. 海外の大学・研究機関 | 11 |
| 4. 幼小中高校 | 3 |
| 5. 民間企業 | 8 |
| 6. 行政 (国縣市町村など) | 6 |
| 7. NPO・市民団体 | 4 |
| 8. その他 () | 3 |

(回答: 医療機関, 高専, 地域支援機関など)